

時 空 読 本

No. 38
2024. 5
Jikudokuhon



株式会社 ゆう建築設計

Tokyo Office 東京都港区芝大門1丁目4-8 浜松町清和ビル7F 〒105-0012
TEL 03-6721-5430 FAX 03-6721-5431

Kyoto Office 京都市中京区堀川通錦小路上ル四坊堀川町617番地 〒604-8254
TEL 075-801-0022 FAX 075-801-8290

E-Mail : office@eusekkei.co.jp

<https://www.eusekkei.co.jp/>



障害者施設計画で私たちが考えていること

- 「ゆめふる成田」の障害者一人一人に合わせた建築対応と、
そこから私が導き出す標準化とは
- 障害者施設の計画もコストを考えるようになります

障害者の建築計画は大きく変わった



砂山 憲一

1) 障害者施設の建築設計 「障害特性への細やかな対応、 さらに個別対応へ」「標準化」「コスト」

ゆう建築設計ではこの5年間で20件を超える障害者の建築を計画しました。そこでの建築計画の特徴は「障害特性への細やかな対応、さらに個別対応」「標準化」「コスト」の3点です。今後の障害者施設の建築計画を行う上で重要なキーワードです。これに支援員の働きやすさ、支援のしやすさが加わります。

1: 特性分類の多様化、利用者への理解が個人単位で

障害者の特性分類が施設によって異なります。重度、軽度、強行などの分類から、各利用者の特性をより伝わりやすい言葉で表すようになってきました。特性に対応する建築的工夫も施設ごとの考え方や分類方法に合わせて細かく対応しています。

入居者全員の個人アセスメントを作成する施設も増えてきました。個人への対応を支援で行うのは当然ですが、建築も個人ごとに対応を変えて設計するケースが出てきています。

2: 標準化の対象が広がっている「落ち着ける」の標準化まで考える

利用者個人への建築対応が進んでいますが、新たに施設を作る場合入居予定者個人ごとの資料がない場合がほとんどです。利用者の特性の詳細がわからなくても、建築対応は行わなければいけません。千葉県成田市に竣工した「ゆめふる成田」は自閉症の方のすまいですが、各個室はそれぞれ個別に計画しています。今後入居予定者がわからない場合でも、自閉症の方の個室をいくつか標準化し、数種類の個室パターンを作っておくことにな

るでしょう。

成田では「落ち着いて暮す」ことができる建築からの対応を考えました。この例で分かるように、障害特性への建築対応の標準化は、「破壊」「失便」などの項目から、「落ち着かない」「感情が不安定」などへも建築ができる事、行わなければいけないことがあるのではないかと考えるようになってきています。

3: 工事費が上昇する中で、特性対応のコストが大きな要素となる

工事費の上昇によって、施設計画を延期せざるを得ない事業者が出てきています。これまで福祉施設の計画では、基本計画段階でコストを検討することは少なかったのですが、この数年コストによって計画内容を変える場合も出てきています。

障害者建築の障害特性への建築対応のコストについて、ゆう設計では細かく算出しています。今後はこのコストを参考にしつつ、建築計画を行うこととなります。特性への建築対応の選択にはコストを考慮に入れて決めていくこととなります。面積もコストに大きくかわりますから、建築計画の初期段階から特性対応のプランをどのように作るか考えなければいけません。

2) ゆう建築設計の障害者建築への向き合い方 「建築は支援の一つ」

ゆう建築設計は医療福祉分野の設計を多く行っていますが、障害者施設に対しては他の分野とは違う思いがあります。それは障害者にどのように向き合おうか考えるところから始まったからです。

最初は障害者施設の便所の改修だったのですが、障害者の住まい方を終日見ていくうちに、社会生活のマナーはどうすればよいのだろうと考えました。ドアや壁を壊すことには壊れにくいものを作ればよいが、床に寝転ぶことへは、寝転ぶことを前提とするのか、寝転ぶことを前提として気持ちの良い床材を選ぶのか、どうすればよいのだろう。フィンランドの施設を社員が見に行き、施設に

は営繕部があり、壊れたところは補修しているところがあることを知り、壊すことで落ち着くなら、壊れる壁でも良いのだろうか悩みました。

またある施設の方から、建築内容はどのようなものになろうとも、支援できちんと対応できるから、あまり気にしなくても大丈夫だと言われ、建築の役割はあるのだろうかとも考えました。10年ぐらい前の話です。

この辺りから、なにか欠けていると感じだしていました。それは特性への建築的工夫の整理は多くやっていますが、住み手の思いはどうかみ取ればよいか、その思いにこたえる障害者のすまいはどう

すればよいか、を日々の計画で考えるようになりました。20年以上前に特養の設計を行った時、高齢で意思表示ができない方の個室をどうすればよいかわからないという私の問いにその施設長は「その人の目を見なさい。じっと見ていればわかってきますよ。」と言ってくれました。住み手を見ることから始まるという私たちの思いはここからきています。

今は素直に障害者の住み方に向き合い、施設の方達と議論しながら、住む人達、支援する人が落ち着く、その方たちに合った建築を作っていけばよいと感じています。



「ゆめふる成田」から学ぶこと

各施設独自の建築的対応を作り上げるために

砂山憲一

1 「ゆめふる成田」の障害者一人一人に合わせた建築対応と、そこから私が導き出す標準化とは

障害者入所支援施設「ゆめふる成田」ではこれまで他の施設ではあまり見られない取り組みが行われています。住んでいる人、一人一人に合わせて居室を作っていることです。この試みは、ゆめふる成田を運営する社会福祉法人菜の花会 小林勉理事長の「『人』が『主』人公になれること、それが『住』まいである」という考えから実現しました。これまで障害者の特性に合わせた建築的工夫は、壊れにくい壁、建具などの建築仕様や、特性によって機械浴を変えるなど設備機器の対応が行われてきました。また建築プランも少人数で暮らすユニット化などが行われてきましたが、居室を使う人に合わせてすべて変える試みはゆう設計では初めてです。

ゆめふる成田はゆう建築設計ホームページに掲載しています「自閉症に寄り添うすまいがほしい ゆめふる成田の施設づくり 河井美希」で詳しく説明していますので、是非ご一読ください。 <https://www.eusekai.co.jp/information/19647>

ゆめふる成田の40の異なる居室とは

40人の異なる個室は、使う人、一人一人への小林理事長や支援員さんの思いを建築にしていっていった結果です。出来上がったものを多くの障害者施設関係者に見てもらうにあたり、個人ごとへの対応と共に、どのような建築的要素で実現できているかを分析し、それぞれの施設独自の対応を作り上げていくことの手掛かりとなるようにと思っています。ゆめふる成田の建築を作る時は、プランや仕様の標準化という発想は全くなかったのですが、私はこれからの障害者施設を考えていくうえで、このゆめふる成田を分析し、参考にすることが大事だと思っています。

標準化は様々な切り口で可能です。ここでは「トイレ、洗面、物入、間仕切り壁、スクリーン」などの建築要素によって、パターン化してみます。

Aタイプ

- ・物入：なし
- ・間仕切り壁：なし
- ・スクリーン：あり(空間を分ける)



Bタイプ

- ・物入：あり
- ・間仕切り壁：なし
- ・スクリーン：あり(空間を分ける)



Cタイプ

- ・物入：あり
- ・間仕切り壁：あり(複数の部屋に分ける)



A・B・Cのトイレが付属するタイプ

A・B・Cの3タイプは、それぞれトイレを設置する場合と設置しない場合がある。



各棟の居室のタイプ分布は棟ごとに異なります

落ち着く場所を作るには、いくつかの空間分離方法が必要で、完全に複数の部屋を持つ場合と、スクリーンで緩やかに分離する場合とを選択します。

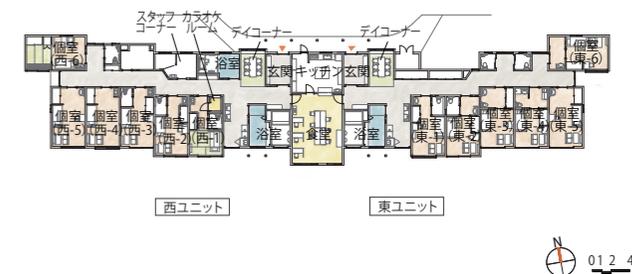
トイレや洗面の設置は、入居者に合わせて選択します。

このように棟ごとに各タイプの割合を見ていくと、棟ごとの特徴が出てきます。

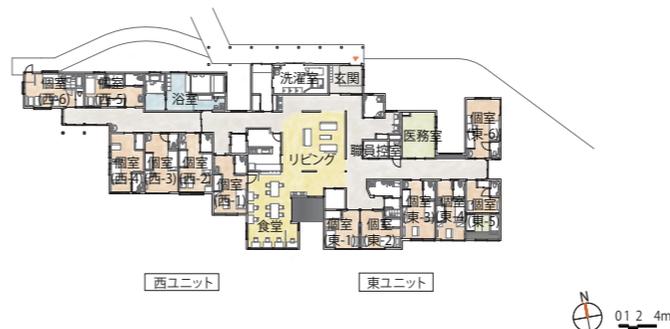
夏棟 特別支援が必要な方々の過ごし方を形にした棟



春棟 男女のユニットが混在するバリエーションにとんだ棟



秋棟 仲間とのびのび過ごすリビングのある棟



冬棟 個室性が高い、マイペースに過ごすことができる棟



夏棟

Aタイプ	3 / 12 (室)
Bタイプ	7 / 12 (室)
Cタイプ	2 / 12 (室)
トイレが 付属する	3 / 12 (室)

春棟

Aタイプ	0 / 12 (室)
Bタイプ	6 / 12 (室)
Cタイプ	6 / 12 (室)
トイレが 付属する	6 / 12 (室)

秋棟

Aタイプ	0 / 12 (室)
Bタイプ	11 / 12 (室)
Cタイプ	1 / 12 (室)
トイレが 付属する	12 / 12 (室)

冬棟

Aタイプ	0 / 6 (室)
Bタイプ	4 / 6 (室)
Cタイプ	2 / 6 (室)
トイレが 付属する	6 / 6 (室)

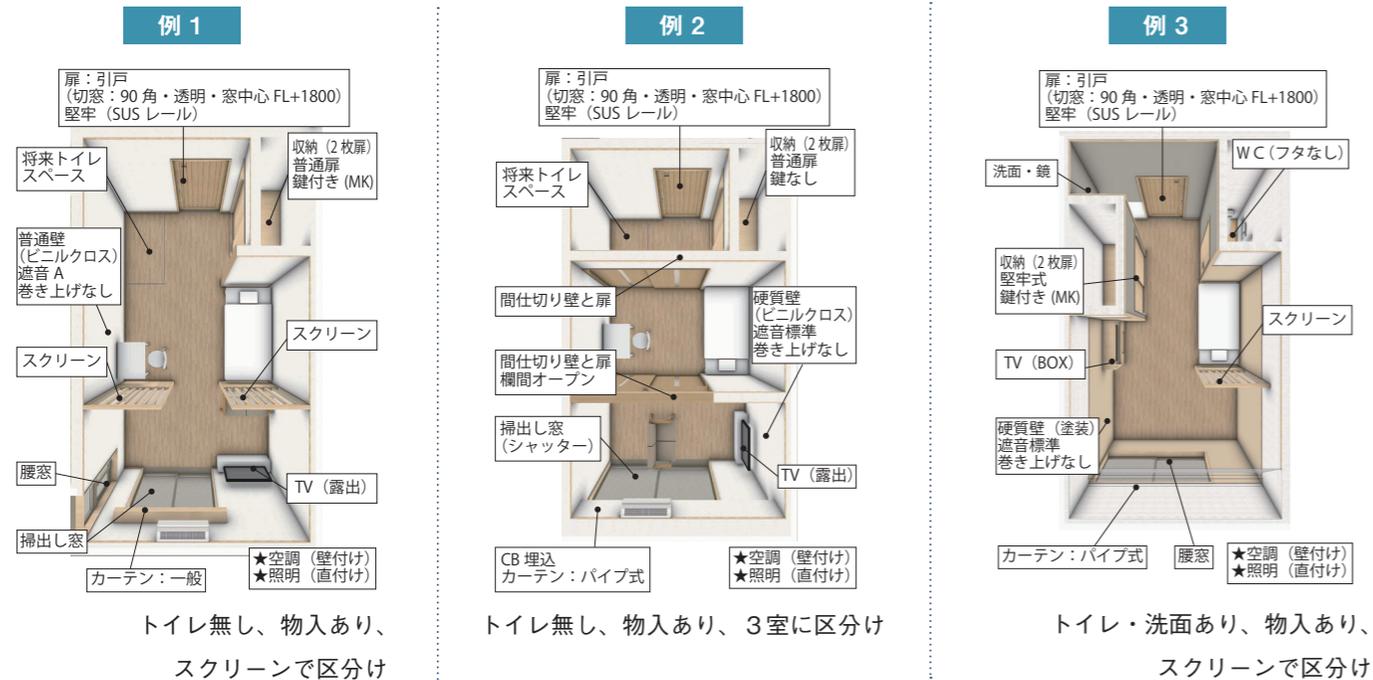
今後各施設独自の標準化が進む

ここで説明した分類は、あくまでゆめふる成田の結果から分析しているわけで、各施設は施設ごとに入居者特性、支援の考え方などに合わせて建築側の対応を変えていくとともに、標準化も独自のものを作っていくことになります。

すでに、個人のアセスメントをおこない支援方法を決めている施設では、新たな施設計画に当たり、ゆめふる成田の個室帳(仕上げ材、建具、設備といった個室を構成する要素を表にまとめたもの)を参考に、独自の個室帳を作成し、特性対応への建築的工夫のパターン化の検討を始めています。

2 障害者施設の計画もコストを考えるようになります

1:居室を特性によって異なる計画にすることは、コストも違ってくる



表：特性対応の違いによる部屋毎のコスト差

項目	居室比較					
	例 1		例 2		例 3	
	選択肢	費用	選択肢	費用	選択肢	費用
建築	広さ	部屋サイズ	14帖 (23.2㎡)	14帖 (23.2㎡)	14帖 (23.2㎡)	
天井	天井高さ	2.5m	0.0万円	2.5m	0.0万円	3.0m：例3 4.4万円
壁	間仕切り壁	遮音A (GW100+強化PB)	14.0万円	標準 (GW100)	10.0万円	標準 (GW100) 10.0万円
	壁表面ボード	普通石膏ボード	6.5万円	普通石膏ボード	6.5万円	硬質石膏ボード 14.3万円
	壁仕上	クロス	7.5万円	クロス	7.5万円	塗装 10.0万円
窓	窓形状	掃き出し	10.0万円	掃き出し	10.0万円	腰窓 6.0万円
	窓シャッター	なし	0.0万円	窓シャッター	28.2万円	なし 0.0万円
家具	カーテン	一般	1.2万円	一般	1.2万円	パイプ式 2.0万円
	居室内の袖壁	2 (袖壁)	33.6万円	なし	0.0万円	1 (袖壁) 16.8万円
	居室内間仕切りの壁と扉	なし	0.0万円	2 (間仕切)	30.0万円	なし 0.0万円
	テレビ	あり (露出)	1.5万円	あり (露出)	1.5万円	あり (BOX) 13.5万円
	収納	扉有 (普通扉)	10.7万円	扉有 (普通扉)	10.7万円	扉有 (堅牢扉) 15.7万円
	収納鍵	あり	1.0万円	なし	0.0万円	あり 1.0万円
電気	照明	照明	直付 2.0万円	直付 2.0万円	埋め込み 7.6万円	
	スイッチ	スイッチ	一般スイッチ 0.2万円	一般スイッチ 0.2万円	強化型スイッチ 1.0万円	
機械	便所	トイレ	なし 0.0万円	なし 0.0万円	あり (一般) 910×1820 9.8万円	
		便座	なし 0.0万円	なし 0.0万円	便器+暖房便座 12.0万円	
		トイレ用給排水	将来対応 2.0万円	将来対応 2.0万円	初期対応 1.5万円	
	洗面	洗面台	なし 0.0万円	なし 0.0万円	あり 8.6万円	
特別個別対応	40室内の数室で設置					
	合計金額		90.2万円	109.8万円	134.2万円	

例3の利用者は、内装材や設備機器への破壊の可能性があるため、建築仕様はその可能性に対応したものを採用し、コストは高くなっています。

例3の仕様

- ・壁下地は破壊に強い硬質石膏ボード
- ・壁仕上げ材は、クロスははがすので塗装
- ・テレビはbox内に収納
- ・照明は埋め込み、照明スイッチは強化型
- ・天井高は3mに上げる

2:各部屋の面積をどの程度にするかはコストを決める大きな要素

居室をスクリーンや建具で分けして複数の場所をつくることで、当然居室面積は大きくなります。トイレ無しで空間を分けないタイプの居室はゆう設計の他施設の事例では居室面積10㎡から14㎡程度です。居室の空間を分けたものは、16㎡から23㎡程度です。10㎡と23㎡の居室の面積差は13㎡もあり、工事費では倍以上の費用が掛かることになります。

障害特性への建築対応は常にコストとかわりません。居室だけではなく、食堂や日中過ごす場所も特性によって面積が大きく変わってきます。

ゆめふる成田の4棟の食堂も面積が大きく違います。(P5 図参照)

夏棟は一人一人に食事場所を確保した閉鎖型食堂。春棟は12人が同時に食事する開放型食堂。秋棟はリビングを併設したオープンな食堂です。夏棟の食堂面積は春棟より大きくなっています。秋棟はリビング、食堂で余暇も過ごしますから、面積は更に増加しています。



夏棟

春棟

秋棟

障害者施設ではコストによって特性対応自体をやめるのではなく、予算に応じた対応の仕方を考える

障害特性への建築的工夫のコストは算出しますが、コストが高いから特性対応をやめることはありません。建築の目的が障害者の暮らしやすさのためであり、その目的の達成が最優先だからです。それでも限られた予算内で実現するためには、建築で行うこと、支援で行えることを、事業者と設計者で共有し、建築的対応のレベルを工夫することを常に前提として計画を進めることが重要になっています。

私達が考える障害者施設への取り組み方を詳しく説明する本を出版しました。

この5年間で私たちは、20件以上の障害者施設の設計を行ってきました。その都度現場を見、施設の方と話し合いを重ねて、その施設の思いを実現することを建築から考えてきました。

私は、私たちが考えたことを皆さんに伝え、それぞれの施設の建築を考えると、少しでも役にたてるようにしたいと思っています。そのためにこの時空読本やホームページのデザインスタディーで情報は常に公開しています。

この本の出版もそのような思いで行いました。

時空読本で簡単に紹介している、障害者施設計画の今後、障害特性への細やかな対応、さらに「個別対応へ」「標準」「建築特性へのコスト」について多くの事例とともに説明しています。

支援に役立つ！

障害者施設の計画ガイドブック

利用者目線の特性対応とコスト設計



著者 砂山 憲一
単行本（ソフトカバー）192P
出版社 学芸出版社
発行日 2024/5/15
本体価格 3500円＋税



書店・Amazonにて販売中

Section1

障害特性に対応する建築的工夫とコスト

- 1 利用者目線で建物を無理なくつくるために
- 2 建築コストのコントロールに必要な視点
- 3 シミュレーションしよう
部屋ごとの特性分類別対応とコスト
- 4 モデルプランで比較しよう
グループホームの全体コスト
- 5 計画を実現するコストマネジメント

Section2

事例でみる障害への対応とコストマネジメント

- 1 少人数に分ける
- 2 個人単位で支援する
- 3 重度の障害を支える
- 4 高齢化に伴走する
- 5 障害に合った特性対応をほどこす
- 6 支援員に配慮する
- 7 既存建物を別の用途に変える

本で取り上げている18の事例

少人数に分ける



社会福祉法人聖家族会
みさかえの園めぐみの家



社会福祉法人こころみる会
グループホーム もちぶね荘・たじま荘



社会福祉法人徳島県手をつなぐ育成会
グループホーム ワンロック

個人単位で支援する



社会福祉法人菜の花会
ゆめふる成田



社会福祉法人今川学園
ふれあいホームなないろ

重度の障害を支える



社会福祉法人ひがし福祉会
飛翔の里 第二生活の家



社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会
Leaves 練馬高野台



社会福祉法人あらぐさ福祉会
障害者福祉センターあらぐさ<新館>

高齢化に伴走する



社会福祉法人福知山学園
みわ翠光園



社会福祉法人こころみる会
こころみ学園<たんぼぼ棟>



社会福祉法人丹後大宮福祉会
あゆみが丘学園<ブナの木寮>

障害に合った特性対応をほどこす



社会福祉法人英芳会
千里みおつしの社 かしのみ寮



社会福祉法人泰斗会
グループホームハナミズキ 生活介護あすなるの里



社会福祉法人北毛清流会
障害者生活支援センターはーもにー



有限会社ライフアシスト
ライフアシスト新館

支援員に配慮する



社会福祉法人福知山学園
グループホーム EAST-SIDE・WEST-SIDE



社会福祉法人福知山学園 生活介護事業所 JUMP
/グループホーム NORTH-SIDE



NPO法人京都マック
アディクション・デイケアセンター/にこにこハウス

既存建物を別の用途に変える

ホームページでも詳しくご紹介しています



高齢者施設



※省略記載
 特別養護老人ホーム：特養
 サービス付き高齢者向け住宅：サ高住
 デイサービス：デイ
 グループホーム：GH



病院



精神科病院



透析



考えたことを広く伝達する

医療・高齢・障害の分野を問わず、設計を通して考えたことを広く知ってもらうことが大事だと私たちは考えています。プランからディテールまで、多くの方に知ってもらえれば、そのノウハウを使って、それぞれの分野に合った計画をより合理的に行うことができます。また、医療・高齢・障害にかかわる建築の質があり、患者や利用者の為になると信じています。そのような思いから全国の事業者の方へこの冊子をお送りしています。日々の情報もホームページやSNSで発信していますので是非ご覧ください。



お気軽にご相談ください

ご相談はお電話の他、メール、ホームページのお問い合わせフォームからも受付しております。お問い合わせには担当者より折り返しご連絡します。



Tokyo Office TEL 03-6721-5430
 Kyoto Office TEL 075-801-0022

E-mail :office@eusekai.co.jp
 ホームページ:https://www.eusekai.co.jp



時空読本



No.37 医療 2023年8月発行



No.34 透析 2022年1月発行



バックナンバー



No.36 医療 2023年2月発行



No.33 精神科 2021年9月発行



No.35 コスト 2022年7月発行



No.30 障害 2021年1月発行

既刊の時空読本は以下のURLよりダウンロードできます
<https://www.eusekai.co.jp/jikuh>

Design Study

良い建築計画を考えるには、事業者、職員との議論、現地調査、様々な角度からの検討が必要です。ゆう建築設計のホームページでは設計コンセプトや作品紹介を通して検討結果を社会へ伝達しています。一方、結論に至るまでの、設計を進める過程で幅広い検討が行われていますが皆さんへ伝えていない事項も多くあります。Design Studyではこれら検討過程での様々な情報をお伝えしていますので是非ご覧ください。



<https://www.eusekai.co.jp/designstudy>